

研修名	保護者支援・子育て支援 令和元年10月7日（月）13：30～16：00
講演	「社会資源の理解」 「地域の子育て家庭への支援」 「保護者支援における面接技法」
講師	桜花学園大学 教授 小嶋 玲子 氏

## 1 講演要旨

### 1) 社会資源の理解

#### ① 子育て家庭を支える社会資源の例

##### ・ フォーマルな社会資源（制度化されているもの）

⇒ 社会制度としての資源：保育や児童福祉に関する法律・制度等

⇒ 専門的な施設や機関

行政の公的な施設や機関：児童相談所、保健センター、警察等

民間も担っている施設や機関：保育所、児童発達支援センター等

⇒ 公式な人的資源：保育士、医師、保健師、弁護士などの専門職

地域の民生委員、主任児童委員等

##### ・ インフォーマルな社会資源（制度化されていないもの）

⇒ 人的資源：家族、親戚、友人、近隣住民、ボランティア等

⇒ 営利の企業や組織：塾、お稽古事、家事代行サービス等

##### ・ 社会資源を利用するための資源：交通手段、情報取得手段（SNS等）

### 2) 地域の子育て家庭への支援

#### ① 『保育所保育指針』より

・ 保育所は、入所する子どもを保育するとともに、社会資源との連携を図りながら、入所する子どもの保護者支援や地域の子育て家庭に対して、支援等を行う役割を担うもの。

・ 保護者に対する子育て支援は、子どもの育ちを家庭と連携して支援していくとともに、保護者及び地域が有する子育てを自ら実践する力の向上に資すると記載されている。

#### ② 保育園、こども園の特性を生かした『地域子育て支援拠点事業』を展開する。

・ 「個を地域で支える援助」が求められ、「個を支える地域を作る支援」こそ、保育園やこども園の役割である。

#### ③ 地域子育て支援の充実のための保育士の役割

・ 親子を支援者や活動場所とつなぐ

・ 親子（家族内）をつなぐ

・ 親子同士や子ども同士（家族同士）をつなぐ

・ 支援者（保育士）同士（関係機関）、親子と関係機関をつなぐ

・ 地域の人と人をつなぐ

### 3) 保護者支援における面接技法

#### ① 傾聴の重要性

『きく』の区別について

聞く (h e a r)	一般的な聞く
聴く (l i s t e n)	身を入れて聴く
訊く (a s k)	尋ねる

#### ② 保護者との関係づくり

<保護者と話し合いを行うポイント>

##### ・話をする場所

⇒ 静かな場所○、玄関先×、「お待ちください」の言葉×

##### ・保護者と保育者の位置関係

⇒ 高低差がある所×

##### ・対応方法

⇒ 相手を叱責し、強制にならないような話し方や言葉を選ぶ。

⇒ 自ら解決策が見出せるような「問いかけ」が大切である。

(リフレイム、「なぜ?」「でもね」「しかし」などの否定用語を使用しない。)

## 2 感想

「保護者支援」や「子育て支援」は、保育園やこども園にとって特別なことではなく、日々当たり前に行っていることである。その当たり前のことが、子どもや保護者に対して、適切に対応できているのかを定期的に見直す必要がある。送迎時の何気ない会話でも言葉を選び、相手の言いたいことや聞きたいことが引き出せているのか等を保育者間で話し合うことが、個々の気付きやスキルアップにも繋がっていくことを再確認した。そしてそれが、園全体の保護者・子育て支援の向上にもなると思われる。園の環境や地域性が異なっても共通していえることは、子育ての不安や悩みを共有、共感できる所は保育園やこども園であり、関わっている保育者であることにも気付くことができた。保護者の要望が多様化し、できるだけ応えていくには、園だけではなく周囲の地域を含めた取り組みが求められている。保育者一人一人が、地域の特性を理解し、地域の一人として子どもや保護者と向き合っていくことが大切であると感じた。これからも子どもや保護者の声を素直に聴き、寄り添える保育者でありたいと思う。

( 記録 なごみこども園 政岡裕美 )